

29. 研修プログラムの名称及び概要

プログラム番号：030675401

病院施設番号：030675

臨床研修病院の名称：松山赤十字病院

臨床研修病院群番号：

臨床研修病院群名：

プログラム番号、病院施設番号及び臨床研修病院群番号は、既に取得されている場合に記入してください。

1. 研修プログラムの名称	松山赤十字病院初期臨床研修プログラム
2. 研修プログラムの特色	<p>地域医療支援病院として連携している医療機関から紹介される豊富な症例を通して幅広い臨床研修を積むとともに、各診療科では地域の基幹病院として提供している高度の専門的医療を学ぶことができる。</p> <p>救急部門の研修は、平成22年度からのプログラムの見直しに伴い、特に力を入れ、救急搬送患者の初期診療に重点をおいた研修を行うとともに、麻酔科において全身管理に必要な手技等を習得することになっている。松山医療圏では救急輪番制（8日に1度）がしかれているが、当院では連携医療機関からの要請に応えるべく、CCU・脳卒中・吐下血・時間外ホットライン（各々専用電話を設置）を通じて、救急当番日以外も24時間365日、救急患者を受入れている。このため、救急部門の研修期間にとどまらず、年間を通して外科系救急も含めて、救急診療に関わることにしている。</p> <p>また、小児救急については、地域の開業医と勤務医が協力して松山市急患医療センターに出務することで、24時間365日の一次救急を行い、更に二次救急は基幹病院が分担しているが、当院はこの中で中心的役割（8日のうち4日を担当）を果たしており、小児科を選択した場合は充実した小児の救急研修ができる。</p> <p>2年次の地域医療では、当院における急性期医療を引き継ぐ、リハビリ、在宅医療、緩和医療などを学べる医療機関や地域に根付いたプライマリ・ケアを学べる研修施設での研修を行う。その他の選択期間については、各自の進路、後期研修を視野に入れ、個々人の希望にそって自由に選択できるようにしている。</p>
3. 臨床研修の目標の概要	<p>(1) 医師としての人格を涵養し、プライマリ・ケアへの理解を深め、患者を全人的に診ることができる基本的な診療能力を修得する。</p> <p>(2) 看護師、薬剤師などのメディカルスタッフと共に診療にあたり、チーム医療の実践を身につける。</p> <p>(3) かかりつけ医など地域の医療機関との密接な連携のもとで、地域完結型の医療を学ぶ。</p> <p>(4) 後期研修（レジデント）で専門医療を体得するための基礎を作る。</p> <p>(5) 赤十字の使命である災害救護活動や医療社会奉仕活動に積極的に参加する。</p>
4. 研修期間	（ 2 ）年（原則として、「2年」と記入してください。）
備考	<p>研修後そのまま専門研修に入り3年以上研修可能な病院は、その旨を記入してください。専門研修を目的として、原則として3年間の後期研修（レジデント）制度をとっており、公募を行っているので研修修了に際し希望者は応募することができます。</p>

5. 臨床研修を行う分野		研修分野ごとの病院又は施設（研修分野ごとの研修期間）			
		* 同一の研修分野について複数の病院又は施設で研修を行う場合には、適宜欄を分割してすべての病院又は施設の名称（病院施設番号）を記入してください。 * 研修期間は、研修分野ごとに週単位で記入してください。各研修分野におけるプログラムの詳細は備考欄に記入してください。 * 選択科目については、その診療科を選択した場合の病院又は施設等を記入してください。			
		病院施設番号	病院又は施設の名称	研修期間	内一般外来
(記入例) x x 科		1234567	〇〇 病院	〇週	〇週
必修科目・分野	内科	030675	松山赤十字病院	24週	1週
	救急部門	030675	松山赤十字病院	12週	
	地域医療	035249	松山ベテル病院	4週	一般外来 1週 在宅診療 1週
		035243	たんぽぽクリニック		
		034290	西予市立野村病院		
		032264	伊予病院		
		096320	西予市立西予市民病院		
		041046	清水医院		
	032267	増田病院			
	076187	おおぞら病院			
032430	久万高原町立病院				
外科	030675	松山赤十字病院	4週	1週	
小児科	030675	松山赤十字病院	4週	1週	
産婦人科	030675	松山赤十字病院	4週		
精神科	032270	松山記念病院	4週		
	032265	堀江病院			
	032266	牧病院			
	030676	愛媛大学医学部附属病院			
一般外来			週		
病院で 定めた 必修 科目	麻酔科	030675	松山赤十字病院	4~8週	週
					週
					週
					週
選択 科目	松山赤十字病院 すべての診療科	030675	松山赤十字病院		週
	選択科目	033173	愛媛県赤十字血液センター		週
	リハビリテーション科	041044	松山リハビリテーション病院		
	救急部門	030587	日本赤十字社和歌山医療センター		
	救急部門	030664	徳島赤十字病院		

備考：基幹型臨床研修病院での研修期間・・・最低〇週 ※原則として、52週以上行うことが望ましい。
臨床研修協力施設での研修期間・・・最大〇週 ※原則として、12週以内であること。ただし、き地・離島診療所等の研修期間が含まれる場合はこの限りでは無い。
研修プログラムに規定された4週以上のまとまった救急部門の研修を行った後に救急部門の研修としてみなす休日・夜間の当直回数・・・約2回/月
救急部門（必修）における麻酔科の研修期間・・・4週 ※但し、4週を上限とする
一般外来の研修を行う診療科・・・内科、外科、小児科、地域医療
※地域医療の中での在宅診療を一般外来の欄に記載すること

① 内科 24週は、内科（血液、糖尿病、高血圧、総合）、腎臓内科、消化器内科、肝臓・胆のう・膵臓内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、リウマチ科のうちから各自の自由な組み合わせで合計24週を選択する。

②〔救急部門研修〕

・救急輪番日（救急日）は、外来の一次救急から救急搬送患者までの初期診療に重点をおき、継続して救急入院患者を担当する。救急日以外は、各ホットラインを含め内科系、外科系のすべての診療科の救急入院患者の中から適切な症例を選び初期診療にあたる。

・2年間を通して救急部門以外の研修期間（研修協力病院、同施設における研修期間を除く）においても月2～3回程度の救急宿日直を担当する。これにより、救急部門研修を8週とすることも可能である。

・麻酔科研修は可能な限り8週行い、挿管・中心静脈確保等の救命に必要な手技を修得する。

③ その他必修として、外科4週、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週、（一般外来含む）とする。但し、選択期間が限られているので、2年次に選択することも可能である。

④ 2年次の48週は、「将来専門とする診療科を中心に関連の診療科」を対象として自由選択とし、すべての診療科を選択することができる。また、赤十字血液センターでの研修も可能とする。

⑤ 希望する者は、将来専門とする診療科を1年次に選択し必修科目を2年次に選択することも可能である。

⑥ 地域医療、精神科については協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設において研修を行うこととする。

⑥ 上述の通り当院における救急部門研修は、軽症から重症まで幅広い救急患者を対象とした初期診療能力および救命救急手技の修得に主眼をおいている。このため救命救急センター（※）等での重症患者の集中治療・救急医療の研修を希望するものは、2年次の選択期間に原則として、4～8週の他施設（赤十字病院）における研修を可能としている。

※日本赤十字社和歌山医療センター高度救命救急センター、徳島赤十字病院高度救命救急センター

